

社会福祉学科 1年 前期 専門科目

1. 心理学と心理的支援
2. 社会学と社会システム
3. ソーシャルワークの基盤と専門職 I
4. 障害者福祉
5. ソーシャルワーク演習 I
6. 介護の基本 I
7. コミュニケーション技術 I
8. 生活支援技術 I
9. 高齢者福祉
10. 児童・家庭福祉

社会福祉学科

| | | | | | | | | | |
|---|------------|--|----------------------------------|--|---|-------|---|------|------|
| 科目名: 心理学と心理的支援 | | | | 担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎 | | | | | |
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 | | | | |
| 2 | 1年次 前期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | 社会福祉士受験資格(必修)、精神保健福祉士受験資格(必修)、介護福祉士受験資格(必修)、福祉心理士 | | | | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 心理臨床の実務経験に基づき、精神障害の理解、心理アセスメントの技法、心理臨床の事例検討などについても授業展開の中に盛り込んでいる。 | | | | | | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要: | | | | | キーワード | | | | |
| ①人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。 ②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。 ③日常生活と心の健康との関係について理解する。 ④心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解できる。 | | | | | ストレス、感情、認知、社会、発達、心理的支援 | | | | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | 自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号) | | 1. 2. 5. 6. | | | | |
| A 知識・理解力 | | 心理学の基礎知識について理解している | | | | | | | |
| C 論理的思考力 | | 人間の行動や心理について科学的、客観的に思考する基礎的な力を身に付けている。 | | | | | | | |
| E 自己管理能力 | | 自己について理解を深めることで自己管理能力を高める | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | | | | |
| テスト: | % | レポート: | 50 % | 発表: | % | 実技試験: | % | その他: | 50 % |
| 特記事項: 自発的な授業時間外学習および積極的授業参加に基づいて成績評価を行う。クリッカーを用いた双方向型授業を行います。また第15回目は、ポスターツアーによるプレゼンテーションを行います。 | | | | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: | | | | | | | | | |
| 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク | | | | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回時に授業の進め方および評価方法を説明します。 | | | | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 主体的に学習できるように、学習到達度について毎回フィードバックします。 | | | | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | 準備学習(予習・復習等) | | | | | |
| | | | | 学習内容 | 学習に必要な時間(分) | | | | |
| ①心理学とは(心理学の歴史と対象、心を探る方法の発展) | | | | 【予習復習】心理学の学問領域 | 30 | | | | |
| ②動機づけと適応 | | | | 【予習復習】クエス1: 動機づけ | 180 | | | | |
| ③感情・情緒 | | | | 【予習復習】クエス2: 感情 | 180 | | | | |
| ④感覚・知覚・認知 | | | | 【予習復習】クエス3: 感覚・知覚・認知 | 180 | | | | |
| ⑤学習・行動 | | | | 【予習復習】クエス4: 学習 | 180 | | | | |
| ⑥記憶・知能 | | | | 【予習復習】クエス5: 記憶・知能 | 180 | | | | |
| ⑦性格 | | | | 【予習復習】クエス6: 性格 | 180 | | | | |
| ⑧対人関係と集団: 社会心理 | | | | 【予習復習】クエス7: 社会心理学 | 180 | | | | |
| ⑨生涯発達(発達課題と発達段階、認知・言語・愛着・道徳性の発達) | | | | 【予習復習】クエス8: 発達 | 180 | | | | |
| ⑩心の健康とストレス | | | | 【予習復習】クエス9: ストレス | 180 | | | | |
| ⑪精神障害・知的障害 | | | | 【予習復習】クエス10: 精神障害・知的障害 | 180 | | | | |
| ⑫発達障害・認知症 | | | | 【予習復習】クエス11: 発達障害・認知症 | 180 | | | | |
| ⑬心理学的アセスメントと心理的支援の基本的技法 | | | | 【予習復習】クエス12: 心理アセスメント | 180 | | | | |
| ⑭心理療法における介入技法の概要 | | | | 【予習復習】クエス13: 心理療法 | 180 | | | | |
| ⑮福祉における心理的支援と心理専門職 | | | | 【予習復習】ポスレベルクエス: 福祉における心理的支援 | 240 | | | | |
| 使用テキスト: 指定テキストはありません。必要な参考資料は、図書館等で自ら収集してください。 | | | | その他参考文献など: 心理学事典[平凡社]; 心理学辞典[有斐閣]; 心理学辞典[丸善]; アイゼンク教授の心理学ハンドブック[ナカニシヤ出版] | | | | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): クエスト型授業によるアクティブ・ラーニングで学びます。履修学生同士が協働しながら、心理学の概要を楽しく学びます。学ぶことに喜びを感じるようになることが、この授業の第一の目標です。参加しないと損しますよ。 | | | | | | | | | |

社会福祉学科

| 科目名: 社会学と社会システム | | | 担当教員 氏名: 中川 翔平 | | | |
|--|--|-------|----------------|-----------|-----------------|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 2 | 1年次 | 前期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | 介護福祉士受験資格(必修) 社会福祉士受験資格(必修) 精神保健福祉士受験資格(必修) 社会福祉主事任用資格 |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | | | | | | |
| 授業科目の学修教育目標の概要: | | | | | | キーワード |
| ①現代社会の特性を理解する。 ②生活の多様性について理解する。 ③人と社会の関係について理解する。 ④社会問題とその背景について理解する。 | | | | | | 社会学、現代社会、行為と共同性、時間・空間・近代、構造化と秩序 |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | | | | |
| A 知識・理解力 | 私たちが生きている社会がどのように成立しているか、その概要を理解する。 | | | | | |
| C 論理的思考力 | 私たちが直面している様々な社会問題について、考え、整理をし、自分なりに問題解決に向け挑戦できる。 | | | | | |
| G 倫理観 | 社会にある多様な価値観に理解を深め、自分自身のスタンスを明確にして、また、他を尊重するための基礎的な土台を身に付けてる。 | | | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 90 % | レポート: % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 10 % | | |
| 特記事項: ●その他に関しては、受講に対する姿勢や講義内での発言や課題の提出状況を含め評価する。 ●本科目では、アクティブ・ラーニングの一環として講義の振り返りやグループワーク・発表を行う。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適宜小テストを行う。最終試験に関しては別に定めた日時に実施する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 採点し、評価する。必要に応じて課題を与える。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | 準備学修(予習・復習等) |
| | | | | | | 学修内容 |
| ①社会学の視点 | | | | | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ②社会構造と変動 | | | | | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ③社会構造と変動1(社会システム、組織と集団) | | | | | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ④社会構造と変動2(人口、グローバリゼーション) | | | | | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑤社会構造と変動3(社会変動、地域) | | | | | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑥社会構造と変動4(環境) | | | | | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑦市民社会と公共性1(社会的格差、社会問題) | | | | | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑧市民社会と公共性2(差別と偏見) | | | | | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑨市民社会と公共性3(災害と復興) | | | | | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑩生活と人生1(家族とジェンダー) | | | | | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑪生活と人生2(健康、労働) | | | | | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑫生活と人生3(世代、ライフステージ、いじめ、ハラスメント、社会的孤立と孤独) | | | | | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑬自己と他者1(相互作用、間主観性、社会的自我) | | | | | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑭自己と他者2(役割取得、アイデンティティ、生涯発達) | | | | | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑮まとめ | | | | | | 【予習】120分 【復習】120分 |
| 使用テキスト: 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座3 社会学と社会システム」中央法規出版 ISBN:978-4-8058-8233-7 C3036 | | | | | | その他参考文献など: 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志著『社会学』有斐閣、2007。 |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本講義は社会を観察する様々な視点を勉強します。そのため、専門用語や抽象的な説明も多いです。事前準備や復習、講師への質問等を意識しましょう。また、参考資料は図書館にあります。各自協力して資料を咀嚼してみましょう。 | | | | | | |

社会福祉学科

| 科目名: ソーシャルワークの基盤と専門職 I | | | 担当教員 氏名: 宮嶋 潔 | | | | | | |
|--|------------|-------|---|------|-----------------|--|-------------|------|------|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 | | | |
| 2 | 1年次 | 前期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | 介護福祉士受験資格(必修) 社会福祉士受験資格(必修) 精神保健福祉士受験資格(必修) 福祉心理士 | | | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士、精神保健福祉士等の資格を有した教員が、相談等の実務経験を生かして授業を行う。 | | | | | | | | | |
| 授業科目の学修教育目標の概要: | | | | | | キーワード | | | |
| ①歴史背景を踏まえた上で総合的かつ包括的な相談援助の理論と知識を理解することができる。 ②実践現場で展開する援助技術が活用できる。 ③ソーシャルワーカーが直面する問題や課題について、複眼的論理的に分析できる。 ④ソーシャルワークの価値と倫理を元にして、当事者を支援することができる。 ⑤ソーシャルワークの倫理綱領を理解し、援助実践に反映できる。 | | | | | | ソーシャルワークの定義、ソーシャルワークの倫理と価値、ソーシャルワークの形成過程 | | | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | | | | |
| 学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | 自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10 | | | | | | |
| A | 知識・理解力 | | 歴史背景を踏まえた上で総合的かつ包括的な相談援助の理論と知識を理解することができる。 | | | | | | |
| B | 専門的技術 | | 実践現場で展開する援助技術が活用できる。 | | | | | | |
| C | 論理的思考力 | | ソーシャルワーカーが直面する問題や課題について、複眼的論理的に分析できる。 | | | | | | |
| D | 問題解決力 | | ソーシャルワークの価値と倫理を元にして、当事者を支援することができる。 | | | | | | |
| G | 倫理観 | | ソーシャルワークの倫理綱領を理解し、援助実践に反映できる。 | | | | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | | | | |
| テスト: | 50 % | レポート: | 20 % | 発表: | % | 実技試験: | % | その他: | 30 % |
| 特記事項: その他とは授業への姿勢、態度のことである。本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワークを行う。 | | | | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。 | | | | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストやレポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う。 | | | | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | 準備学修(予習・復習等) | | | |
| | | | | | | 学修内容 | 学修に必要な時間(分) | | |
| ①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけⅠ(社会福祉士及び介護福祉士法) | | | | | | 【事前】①当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 | | | |
| ②社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけⅡ(精神保健福祉士法) | | | | | | 【事前】②当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 | | | |
| ③社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけⅢ(社会福祉士・精神保健福祉士の専門性) | | | | | | 【事前】③当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 | | | |
| ④ソーシャルワークの定義(グローバル定義) | | | | | | 【事前】④当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 | | | |
| ⑤ソーシャルワークの原理Ⅰ(社会正義、人権尊重) | | | | | | 【事前】⑤当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 | | | |
| ⑥ソーシャルワークの原理Ⅱ(集団的責任、多様性の尊重) | | | | | | 【事前】⑥当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 | | | |
| ⑦ソーシャルワークの理念Ⅰ(当事者主権、尊厳の保持) | | | | | | 【事前】⑦当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 | | | |
| ⑧ソーシャルワークの理念Ⅱ(権利擁護、自立支援) | | | | | | 【事前】⑧当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 | | | |
| ⑨ソーシャルワークの理念Ⅲ(ソーシャル・インクルージョン、ノーマライゼーション)・中間まとめ | | | | | | 【事前】⑨当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 | | | |
| ⑩ソーシャルワークの形成過程Ⅰ(慈善組織協会、セトルメント運動) | | | | | | 【事前】⑩当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 | | | |
| ⑪ソーシャルワークの形成過程Ⅱ(医学モデルから生活モデル、ソーシャルワークへの統合化) | | | | | | 【事前】⑪当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 | | | |
| ⑫ソーシャルワークの専門職倫理Ⅰ 専門職倫理、倫理綱領、倫理的ジレンマ) | | | | | | 【事前】⑫当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 | | | |
| ⑬事例検討(独居高齢者への支援) | | | | | | 【事前】⑬当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 | | | |
| ⑭事例検討(児童虐待への支援) | | | | | | 【事前】⑭当該ページを読む 【事後】授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 | | | |
| ⑮まとめ | | | | | | 【事前】今までの授業の復習 【予習】120分 【復習】120分 | | | |
| 使用テキスト: 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職(共通・社会専門)」中央法規出版 ISBN:978-4-8058-8241-2 C3036 | | | | | | その他参考文献など: 随時紹介する。 | | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ソーシャルワークの基本的な内容となります。予習・復習をしっかりと行ってください。 | | | | | | | | | |

社会福祉学科

| | | | | | | |
|--|------------|-------|--|-----------|--------------------------------|--|
| 科目名： 障害者福祉 | | | 担当教員 氏名： 鷹西 恒 | | | |
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 2 | 1年次 | 前期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | 介護福祉士受験資格 社会福祉士受験資格 精神保健福祉士受験資格 社会福祉士主任任用 |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか： | | | 社会福祉士等の資格を有した教員が、相談援助、自治体の各種福祉計画策定等の実務経験を生かして授業を行う | | | |
| 授業科目の学修教育目標の概要： ①障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②障害者福祉の歴史と障害者観の変遷、制度の発展経過について理解する。 ③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び介護福祉士、精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。 | | | | | キーワード エンパワメント 自立支援制度 権利擁護 | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | | | | |
| A 知識・理解力 | | | 利用者支援のための理論と知識を総合的に理解することができる | | | |
| B 専門的技術 | | | 利用者をアセスメントする視点等を身につけることができる | | | |
| C 論理的思考力 | | | 疾病、障害から生活レベルを想定することで支援の論理性を培うことができる | | | |
| D 問題解決力 | | | 新しい理念などを知識として活用し、問題解決に至る力を身につけることができる | | | |
| G 倫理観 | | | 差別や偏見について考えることで自己の人格的成長を図ることができる | | | |
| 成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト： 50 % | レポート： 40 % | 発表： % | 実技試験： % | その他： 10 % | | |
| 特記事項：その他とは出席状況、授業中の態度、課題の提出状況等による評価である | | | | | | |
| アクティブラーニング要素： 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：レポート等は適時、筆記試験は後半に予定している | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：レポート等返却時のコメント等でアドバイスを行う | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | 準備学修(予習・復習等) | |
| | | | | | 学修内容 | 学修に必要な時間(分) |
| ①障害の概念と障害者の実態 | | | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ②障害の概念と障害者の実態 ICIDHとICF | | | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ③障害者福祉の基本理念① ノーマライゼーション、リハビリテーション | | | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ④障害者福祉の基本理念② エンパワメント、インクルージョン | | | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑤障害者の法制度1 障害者権利条約と障害者基本法 | | | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑥障害者施策の発展と歴史 身体、知的、精神、発達障害等の各法 | | | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑦障害者福祉のサービス体系 障害者総合支援法 概説 | | | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑧障害者福祉のサービス体系 障害者総合支援法 実践、運用 | | | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑨ユニバーサルデザインとバリアフリー(バリアフリー法) | | | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑩自立生活と生活ニーズ | | | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑪障害者の社会参加1 ～障がい者スポーツの世界～ | | | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑫障害者の社会参加2 ～就労支援、法制度～ | | | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑬差別と偏見 (障害者差別解消法と障害者虐待防止法含) | | | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑭障害者と家族等に対する支援の実際(他職種との連携、関連サービスの理解) | | | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑮まとめ | | | | | 【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| 使用テキスト：最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座8障害者福祉(中央法規)ISBN97-4-8058-8238-2 | | | | | その他参考文献など： 「厚生労働白書」「障害者白書」等 | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：事前・事後学習において、テキストだけでなく、国の指標や各種データ等にも目を通してください。 | | | | | | |
| Google ClassroomやGoogle Formsを連絡や評価に使用します。 | | | | | | |

社会福祉学科

| 科目名: ソーシャルワーク演習 I | | | | 担当教員 氏名: 宮嶋 潔、松尾 祐子 | | | | | |
|--|------------|--|-----------------------------------|---|--|---|---|------|------|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 | | | | |
| 1 | 1年次 | 前期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | 介護福祉士受験資格(必修) 社会福祉士受験資格(必修) 精神保健福祉士受験資格(必修) | | | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | | ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支援方法を体験的に学ぶ授業を行っている。 | | | | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要: | | | | | キーワード | | | | |
| 他の科目との関連性を踏まえ、ソーシャルワーカーに求められる基礎的な能力とコミュニケーション能力を養う。また、価値規範と倫理を実践的に学び、ソーシャルワークの展開過程に用いられる知識と技術を理解する。 | | | | | ソーシャルワークの価値規範・倫理、コミュニケーション技術、自己覚知、面接技術、ソーシャルワークの展開過程 | | | | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | 自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) | | 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10 | | | | |
| A 知識・理解力 | | ソーシャルワークに必要な知識と技術を理解する。 | | | | | | | |
| C 論理的思考力 | | 当事者が直面する問題を複眼的論理的に分析できる。 | | | | | | | |
| E 自己管理能力 | | 常に自らを律して、他者とコミュニケーションができる。 | | | | | | | |
| G 倫理観 | | ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解できる。 | | | | | | | |
| H コミュニケーション力 | | ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。 | | | | | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | | | | |
| テスト: | % | レポート: | 40 % | 発表: | 50 % | 実技試験: | % | その他: | 10 % |
| 特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価し、その他とは授業態度・姿勢のことであり、アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベートを行う。 | | | | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: | | | | | | | | | |
| 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、 <u>ディベート</u> <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク | | | | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。 | | | | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントと評価をつけて返却する。 | | | | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | 準備学習(予習・復習等) | | | | | |
| | | | | 学習内容 | 学習に必要な時間(分) | | | | |
| ①オリエンテーション | | | | 【予習・復習】レポート作成 | 【予習】60分 【復習】60分 | | | | |
| ②自己覚知(自己理解) | | | | 【予習・復習】レポート作成 | 【予習】60分 【復習】60分 | | | | |
| ③他者理解 | | | | 【予習・復習】レポート作成 | 【予習】60分 【復習】60分 | | | | |
| ④基本的なコミュニケーション技術(言語的技術) | | | | 【予習・復習】レポート作成 | 【予習】60分 【復習】60分 | | | | |
| ⑤基本的なコミュニケーション技術(非言語技術) | | | | 【予習・復習】レポート作成 | 【予習】60分 【復習】60分 | | | | |
| ⑥基本的な面談技術(1) | | | | 【予習・復習】レポート作成 | 【予習】60分 【復習】60分 | | | | |
| ⑦基本的な面談技術(2) | | | | 【予習・復習】レポート作成 | 【予習】60分 【復習】60分 | | | | |
| ⑧ソーシャルワークの展開過程(ケースの発見・インテーク) | | | | 【予習・復習】レポート作成 | 【予習】60分 【復習】60分 | | | | |
| ⑨ソーシャルワークの展開過程(アセスメント) | | | | 【予習・復習】レポート作成 | 【予習】60分 【復習】60分 | | | | |
| ⑩ソーシャルワークの展開過程(プランニング) | | | | 【予習・復習】レポート作成 | 【予習】60分 【復習】60分 | | | | |
| ⑪ソーシャルワークの展開過程(モニタリング・アフターケア) | | | | 【予習・復習】レポート作成 | 【予習】60分 【復習】60分 | | | | |
| ⑫ソーシャルワークの記録 | | | | 【予習・復習】レポート作成 | 【予習】60分 【復習】60分 | | | | |
| ⑬グループダイナミックスの活用 | | | | 【予習・復習】レポート作成 | 【予習】60分 【復習】60分 | | | | |
| ⑭プレゼンテーション技術 | | | | 【予習・復習】レポート作成 | 【予習】60分 【復習】60分 | | | | |
| ⑮授業のまとめと振り返り | | | | 【予習・復習】レポート作成 | 【予習】60分 【復習】60分 | | | | |
| 使用テキスト: 最新社会福祉士精神保健福祉士養成講座 13ソーシャルワーク演習 中央法規 978-4-8058-8243-6 | | | | その他参考文献など: 川村隆彦著「価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク」中央法規 | | | | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。 | | | | | | | | | |

社会福祉学科

| 科目名： 介護の基本 I | | | 担当教員 氏名： 毛利 亘 | | | |
|--|--------------|---------|-----------------------------------|--|-----------------|-----------------------------|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 4 | 1年次 | 前期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | 介護福祉士受験資格(必修) |
| 実務経験を用いてどのよ 高齢者施設介護の経験、生活相談員の経験から介護を必要とする人の尊厳を守るための支援やかかわりを うな授業を行っているか： 重視した授業内容とします。 | | | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要： | | | | | | キーワード |
| 介護に関する歴史を理解し、介護の目的や介護福祉士の定義、福祉専門職の役割、介護福祉 士の役割や機能について理解する。また、生活や生活障害の理解、生活を流れ捉え、その人ら しい生活支援への視点についての基礎知識を習得する。 | | | | | | 福祉の理念、役割と機能、福祉従事者、 介護福祉士 |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | 自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) | | 2. 4. 5. 6. | |
| A 知識・理解力 | | | 福祉専門職・介護福祉士の役割や専門性を理解することができる | | | |
| C 論理的思考力 | | | 利用者主体の支援を常に考えることができる能力を養う | | | |
| G 倫理観 | | | 利用者の尊厳を遵守できる | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト： 50 % | | レポート： % | | 発表： % | | 実技試験： % |
| その他： 50 % | | | | | | |
| 特記事項：その他とは授業の中で記入を求める個人の学びや感想、演習のためのシートです。またアクティブラーニングの視点により グループ討議を取り入れます。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：第15「回目」に中間評価のためのシートを配布します。第29回目に最終評価のためのテスト について説明します。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：最終評価のための筆記テストと授業中に配布し記入を求めるシートにて採点・評価をし ます。シートは都度コメントを記入して返却します。 | | | | | | |
| 使用テキスト：最新「介護福祉士養成講座3 「介護の基本 I」第2版 中央法規 出版 介護福祉士養成講座編集委員会 ISBN978-4-8058-8392-1 | | | | その他参考文献など：「手をつないで見上げた空は」藤川幸之助著 ポプラ社 | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：グループワークの際は積極的に意見交換を行ってください。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | 準備学習(予習・復習等) | | |
| | | | | 学習内容 | | 学習に必要な 時間(分) |
| 回数 | | | | | | |
| 1 | 介護福祉とは | | | テキスト第1章第1節を読む 【予習】30分 【復習】30分 | | |
| 2 | 介護を取り巻く状況 | | | テキスト第1章第1節を読む 【予習】30分 【復習】30分 | | |
| 3 | 介護を必要とする人とは | | | テキスト第1章第3節を読む 【予習】30分 【復習】30分 | | |
| 4 | 介護を必要とする人の生活 | | | テキスト第1章第3節を読む 【予習】30分 【復習】30分 | | |
| 5 | 介護の歴史 | | | テキスト第1章第2節を読む 【予習】30分 【復習】30分 | | |

※前ページよりつづき

社会福祉学科

| 科目名: 介護の基本 I | | 担当教員 氏名: 毛利 亘 | |
|--------------|------------------------|---------------|--------------------|
| 授 業 計 画 | | 準備学習(予習・復習等) | |
| | | 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
| 6 | 福祉・介護の基本理念 | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 7 | 介護とは | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 8 | 介護の歴史から考える求められる介護 | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 9 | 介護の歴史から考える求められる介護 映像学習 | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 10 | 福祉専門職についての理解 | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 11 | 介護福祉士の役割 | テキスト第2章第1節を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 12 | 社会福祉士及び介護福祉士法 | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 13 | 介護福祉士との活動 | テキスト第2章第2節を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 14 | 介護福祉士の活動の場 | テキスト第2章第2節を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 15 | 介護福祉士の役割 | テキスト第2章第3節を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 16 | 介護福祉士の養成 | テキスト第2章第2節を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 17 | 職能団体についての理解 | テキスト第2章第4節を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 18 | 福祉の倫理 | テキスト第3章第1節を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 19 | 介護の倫理 | テキスト第3章第2節を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 20 | 介護福祉士会の倫理綱領の理解1 自立 | テキスト第3章第2節を読む | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 21 | 介護福祉士会の倫理綱領の理解2 プライバシー | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 22 | 介護福祉士会の倫理綱領の理解3 連携 | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 23 | 介護福祉士会の倫理綱領の理解4 ニーズの代弁 | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 24 | 介護福祉士会の役割・活動1 | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 25 | 介護福祉士会の役割・活動2 協力・連携の事例 | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 26 | 利用者本位 | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 27 | 事例から考える利用者本位 | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 28 | 事例から考える利用者本位 | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 29 | 介護や福祉に対する概念を持つということ | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |
| 30 | 介護や福祉に対する概念を持つということ 演習 | 配布資料を読む・振り返る | 【予習】30分 【復習】30分 |

| | | | | | | |
|---|--|-------|-----------------------------------|----------------------|------------------------|--|
| 科目名： コミュニケーション技術 I | | | 担当教員 氏名： 宮嶋 潔・松尾 祐子 | | | |
| 単位 | 開講時期（年次・期） | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 | |
| 1 | 1年次 前期 | 専門科目 | 演習 | 必修 | 介護福祉士受験資格（必修） | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 社会福祉士としての実務経験を踏まえてコミュニケーション技術の実際について授業を行う。 | | | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要： | | | | | キーワード | |
| ①信頼関係の構築に必要な共感的な理解と意思決定支援が理解できる。 ②コミュニケーションの実際に必要な技術を習得することができる。 ③共感的理解と意思決定支援のためのコミュニケーションを理解することができる。 ④コミュニケーションの基本的な技術を習得することができる。 ⑤集団におけるコミュニケーションの意義を理解することができる。 | | | | | 信頼関係、受容と共感、コミュニケーション技術 | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | 自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) | | 2. 5. 6. | |
| A 知識・理解力 | 支援を要する人への基本的なコミュニケーションの知識について理解することができる。 | | | | | |
| B 専門的技術 | 支援を要する人への基本的なコミュニケーション技術を習得する。 | | | | | |
| C 論理的思考力 | 支援を要する人やその家族等に対する適切なコミュニケーションを組み立てることができる。 | | | | | |
| H コミュニケーション力 | 支援を要する人の心身の状態に応じたコミュニケーションの実践力を身につける。 | | | | | |
| 成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト： 70 % | レポート： % | 発表： % | 実技試験： % | その他： 30 % | | |
| 特記事項：「その他：30%」では、授業態度について評価する。また、本科目はアクティブラーニングの一環として、ディスカッションやグループワークを活用する。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：別に定めた日時で実施する。 | | | | | | |
| 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：別に定めた日時で実施するテストに評価を付けて学生に返却する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | 準備学習（予習・復習等） | | | |
| | | | 学習内容 | 学習に必要な時間（分） | | |
| ①福祉（介護）におけるコミュニケーションの意義と目的 | | | 【予習】 テキストの該当箇所を読む。 【復習】 ①の復習 | 【予習】 30分 【復習】 30分 | | |
| ②福祉（介護）におけるコミュニケーションの展開過程についての理解 | | | 【予習】 テキストの該当箇所を読む。 【復習】 ②の復習 | 【予習】 30分 【復習】 30分 | | |
| ③コミュニケーションの果たす役割 | | | 【予習】 テキストの該当箇所を読む。 【復習】 ③の復習 | 【予習】 30分 【復習】 30分 | | |
| ④福祉専門職（介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士）の職務とコミュニケーション | | | 【予習】 テキストの該当箇所を読む。 【復習】 ④の復習 | 【予習】 30分 【復習】 30分 | | |
| ⑤福祉専門職（介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士）のコミュニケーション支援の対象 | | | 【予習】 テキストの該当箇所を読む。 【復習】 ⑤の復習 | 【予習】 30分 【復習】 30分 | | |
| ⑥援助関係とコミュニケーション | | | 【予習】 テキストの該当箇所を読む。 【復習】 ⑥の復習 | 【予習】 30分 【復習】 30分 | | |
| ⑦援助関係を構築するための原則 | | | 【予習】 テキストの該当箇所を読む。 【復習】 ⑦の復習 | 【予習】 30分 【復習】 30分 | | |
| ⑧話を聴く技法 | | | 【予習】 テキストの該当箇所を読む。 【復習】 ⑧の復習 | 【予習】 30分 【復習】 30分 | | |
| ⑨受容 | | | 【予習】 テキストの該当箇所を読む。 【復習】 ⑨の復習 | 【予習】 30分 【復習】 30分 | | |
| ⑩共感 | | | 【予習】 テキストの該当箇所を読む。 【復習】 ⑩の復習 | 【予習】 30分 【復習】 30分 | | |
| ⑪非言語・準言語コミュニケーション | | | 【予習】 テキストの該当箇所を読む。 【復習】 ⑪の復習 | 【予習】 30分 【復習】 30分 | | |
| ⑫意欲を引き出すコミュニケーション | | | 【予習】 テキストの該当箇所を読む。 【復習】 ⑫の復習 | 【予習】 30分 【復習】 30分 | | |
| ⑬意思決定を支援するためのコミュニケーション | | | 【予習】 テキストの該当箇所を読む。 【復習】 ⑬の復習 | 【予習】 30分 【復習】 30分 | | |
| ⑭集団におけるコミュニケーション | | | 【予習】 テキストの該当箇所を読む。 【復習】 ⑭の復習 | 【予習】 30分 【復習】 30分 | | |
| ⑮コミュニケーションにおける距離・まとめ | | | 【予習】 テキストの該当箇所を読む。 | 【予習】 30分 【復習】 30分 | | |
| 使用テキスト：最新介護福祉士養成講座 編集介護福祉士養成講座 編集会「コミュニケーション技術」第2版 中央法規 ISBN978-4-8058-8394-5 | | | その他参考文献など： | | | |
| 受講上の留意点（担当者からのメッセージ）：演習には積極的に臨んでください。その取り組みの姿勢も評価します。 | | | | | | |

社会福祉学科

| 科目名: 生活支援技術 I | | | 担当教員 氏名: 窪田 直美、中島勝秀 | | | |
|--|--|-------|--------------------------------------|-----------------|------------------|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 2 | 1年次 | 前期 | 専門科目 | 演習 | 必修 | 介護福祉士国家試験受験資格(必修) |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | | | | | | 介護福祉士の経験から介護に必要な技術実践を演習に取り入れ、安全・安楽・快適な生活支援技術を体験し習得できるよう授業を行う。 |
| 授業科目の学修教育目標の概要: | | | | | | キーワード |
| 生活の豊かさの観点から尊厳の保持や自立支援、本人主体の生活が継続できるようなチームアプローチについて理解し、多職種との協働による居住環境の整備に関する知識・技術を習得できる。また根拠に基づいた環境整備・身したく・移動に関する介護実践を行うことができる能力を養う。 | | | | | | 自立支援 コミュニケーション 安全・安楽 清潔 福祉用具 |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | | | | |
| A 知識・理解力 | 生活援助の基本的姿勢及び技術を理解することができる | | | | | |
| B 専門的技術 | 利用者に対する適切な生活支援技術および態度を習得することができる | | | | | |
| C 論理的思考力 | 科学的な根拠をもとに安全・安楽な技術を実践できる | | | | | |
| G 倫理観 | 利用者の尊厳を遵守した生活支援技術が展開できる | | | | | |
| H コミュニケーション力 | 自立支援や利用者主体の技術を行うためのコミュニケーション能力を養うことができる | | | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 50 % | レポート: % | 発表: % | 実技試験: 50 % | その他: % | | |
| 特記事項: 授業態度や取り組みの姿勢も評価時に参考とします。尚、アクティブラーニングの一環としてグループワークや発表を取り入れます。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 28・29回目に事例演習を実施します。30回目に振り返りをします。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 筆記試験・実技試験共に結果を全体及び必要に応じて個人にフィードバックします。 | | | | | | |
| 使用テキスト: ①最新介護福祉士養成講座「生活支援技術 I」第2版 編集介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 出版 ISBN978-4-8058-8395-2 ②最新介護福祉士養成講座「生活支援技術 II」第2版 編集介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 出版 ISBN978-4-8058-8396-9 | | | その他参考文献など: 「図解介護福祉士実技試験完全マスター」誠文堂新光社 | | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | 準備学修(予習・復習等) | |
| | | | | | 学修内容 | 学修に必要な時間(分) |
| 回数 | | | | | | |
| 1 | ICFの視点に基づく生活支援・ライフサイクルと生活の豊かさ・ライフステージとチームアプローチ | | | A・Bクラス 合同授業 | 授業で配布された資料の復習をする | 復習30分 |
| 2 | 住まいの役割と機能・快適な室内環境と自立に向けた居住環境の整備 実習室ベッド周辺物品の理解 | | | A・Bクラス 合同授業 | 授業で配布された資料の復習をする | 予習30分 復習30分 |
| 3 | 住まいの役割と機能・快適な室内環境と自立に向けた居住環境の整備 リネン類の取り扱い | | | 以降各クラス ごとに授業 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 4 | 住まいの役割と機能・快適な室内環境と自立に向けた居住環境の整備 ベッドメイキングの基本 | | | | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 5 | 快適な室内環境 ベッドメイキングの応用 | | | | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |

※前ページよりつづき

社会福祉学科

| 科目名： 生活支援技術 I | | 担当教員 氏名： 窪田 直美、中島勝秀 | |
|---------------|--|---------------------|----------------|
| 授業計画 | | 準備学修(予習・復習等) | |
| | | 学修内容 | 学修に必要な時間(分) |
| 6 | 快適な室内環境 効率的なベッドメイキング | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 7 | リネン類の交換と体位 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 8 | リネン交換の実践と体位変換 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 9 | 身支度の介護1 身支度を整えるということ | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 10 | 身支度の介護2 整髪・洗面 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 11 | 身支度の介護3 爪や皮膚の手入れ | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 12 | 身支度の介護4 点眼・口腔ケア | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 13 | 衣服の着脱の介護1 上下衣の着脱 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 14 | 衣服の着脱の介護2 片麻痺の方への着脱 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 15 | 環境整備や身支度に関するまとめ | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 16 | 衣服の着脱の介護3 片麻痺の方への衣類交換 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 17 | 衣服の着脱の介護4 臥床状態にある方への着脱 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 18 | 衣服の着脱の介護5 臥床状態にある方への衣類交換 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 19 | 衣服の着脱の介護6 着脱の介護まとめの演習 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 20 | 着脱の介護まとめの演習 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 21 | 移動の介護1 移動の意義と目的・ボディメカニクスを意識した移動の介護とは、福祉用具の意義 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 22 | 移動の介護2 体位変換・臥床状態におけるベッド上での移動、福祉用具の活用 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 23 | 移動の介護3 起居・起立、福祉用具の活用 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 24 | 移動の介護4 歩行介助 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 25 | 移動の介護5 車椅子での移動 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 26 | 移動の介護6 車椅子での移動 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 27 | 移動の介護7 車椅子への移乗 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 28 | 事例演習1 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 29 | 事例演習2 | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |
| 30 | まとめ | 演習を振りかえる | 予習30分 復習30分 |

| 社会福祉学科 | | | | | | |
|--|--------------------------------|--|-----------------------------|------------------------------------|--|--|
| 科目名: 高齢者福祉 | | | | 担当教員 氏名: 中村尚紀 | | |
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 | |
| 2 | 1年次 前期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | 社会福祉士受験資格(必須) 介護福祉士受験資格(必須) 社会福祉主事任用資格 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか | | 介護支援専門員・社会福祉士・精神保健福祉士・認知症専門棟相談員の実務経験を活かして、高齢者支援の実際や専門職との連携について教える内容を含める。 | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要: | | | | キーワード | | |
| 高齢者の生活を取り巻く社会環境や高齢者福祉の歴史や制度を理解する。また高齢期の生活課題を踏まえて、社会福祉士としての支援のあり方を理解する。 | | | | 高齢者の特性、社会環境、高齢者福祉の歴史、法制度、介護保険制度、支援 | | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | 自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) | | 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10 | | |
| A 知識・理解力 | 高齢者を取り巻く社会環境や福祉の歴史、法制度を理解する。 | | | | | |
| B 専門的技術 | 高齢者支援に関連する機関や専門職の役割を理解する。 | | | | | |
| C 論理的思考力 | 高齢者に対する法制度の現状を理解し課題を考えることができる。 | | | | | |
| D 問題解決力 | 高齢者の生活課題を踏まえ解決策を考えることができる。 | | | | | |
| G 倫理観 | 高齢者とその家族の支援に必要な倫理を理解する。 | | | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 50 % | レポート: 30 % | 発表: 10 % | 実技試験: % | その他: 10 % | | |
| 特記事項: その他として、授業に対する参加度や態度を含む。 アクティブラーニングの一環としてグループワークや発表を行う。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 期末テストを行う。(レポートの場合あり) 毎回授業の感想 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントをつけて返却する。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | 準備学習(予習・復習等) | | | |
| | | | 学習内容 | | 学習に必要な時間(分) | |
| ①オリエンテーション、高齢者の定義と特性 | | | 【予習】第1章を読む 【復習】第1章のまとめ | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ②高齢者の生活実態 | | | 【予習】第2章を読む 【復習】生活実態をまとめる | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ③高齢者を取り巻く社会環境 | | | 【予習】第2章を読む 【復習】社会環境をまとめる | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ④高齢福祉の理念 | | | 【予習】2章を読む 【復習】戦前の高齢者福祉 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑤高齢者観の変遷 | | | 【予習】2章を読む 【復習】戦後の高齢者福祉 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑥高齢者福祉制度の発展過程 | | | 【予習】2章を読む 【復習】歴史をまとめる | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑦介護保険法 | | | 【予習】4章を読む 【復習】老人福祉法 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑧介護保険制度のサービス | | | 【予習】5章を読む 【復習】介護保険法 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑨老人福祉法 | | | 【予習】5章を読む 【復習】介護保険サービス | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑩高齢者の医療の確保に関する法律 | | | 【予習】5章を読む 【復習】介護保険サービス | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑪高齢者虐待防止法 | | | 【予習】3章を読む 【復習】生活ニーズ | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑫バリアフリー法、高齢者住まい法など | | | 【予習】3章を読む 【復習】介護の概念 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑬高齢者支援における関係機関と専門職 | | | 【予習】9章を読む 【復習】介護技法 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑭関連する専門職の連携 | | | 【予習】9章を読む 【復習】介護予防 | | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑮高齢者と家族等に関する支援の実際 | | | 【予習】介護についてまとめる | | 【予習】120分 | |
| 使用テキスト: 最新・社会福祉士養成講座専門科目2『高齢者福祉』中央法規 ISBN: 978-4-8058-8245-0 「みんないきいき介護保険」、株式会社 社会保険出版社 | | | | その他参考文献など: 『高齢社会白書』内閣府 | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 配布するプリントは整理しておいてください。 | | | | | | |

| 社会福祉学科 | | | | | | |
|--|------------|------------|--------------------------------------|----------------------------|--|--------------------------------|
| 科目名: 児童・家庭福祉 | | | | 担当教員 氏名: 松尾 祐子 | | |
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修/選択 | 備考 |
| 2 | 1年次 | 前期 | 専門科目 | 講義 | 選択 | 介護福祉士受験資格(選択) 社会福祉士受験資格(必須) |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士・精神保健福祉士の資格を有した教員が、相談援助の実務経験を活かして授業を行う。 | | | | | | |
| 授業科目の学習教育目標の概要: | | | | | キーワード | |
| ①子どもが権利の主体であることを踏まえ、子どもを取り巻く社会環境を理解する。 ②子ども家庭福祉の歴史の変遷や法制度の発展過程を理解する。 ③子ども家庭福祉領域における支援の仕組みと社会福祉士の役割を理解する。 ④子どもや家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。 | | | | | 子どもの権利、児童福祉法、 子育て支援、社会的養護、児童虐待、ソーシャルワーク | |
| 授業における学修の到達目標 | | | | | | |
| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | | | 自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号) | | 1. 2. 3. 5. 7 | |
| A 知識・理解力 | | | 子ども家庭福祉分野における総合的な知識力を高めることができる。 | | | |
| B 専門的技術 | | | 子どもに関わる相談援助に必要な情報や技術を身につけることができる。 | | | |
| C 論理的思考力 | | | 相談援助のプロセスを理解することで思考力を身につけることができる。 | | | |
| D 問題解決力 | | | 事例を検討することで問題解決能力を高めることができる。 | | | |
| G 倫理観 | | | 子どもの権利擁護について考えることで自己の人格的成長を図ることができる。 | | | |
| 成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする | | | | | | |
| テスト: 50 % | | レポート: 40 % | | 発表: % | 実技試験: % | その他: 10 % |
| 特記事項: 上記の「その他」においては、授業中の態度、演習での発言、発表等で評価する。 ・本科目ではアクティブラーニングの一環として、グループワーク(事例検討等)を行う。 | | | | | | |
| アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク | | | | | | |
| テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回の終わりに、疑問点や勉強になったこと、面白いと感じたことなど所感をミニレポートにまとめて提出とする。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントを付けて学生にフィードバックする。 | | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | 準備学習(予習・復習等) | | |
| | | | | 学習内容 | 学習に必要な 時間(分) | |
| ①オリエンテーション、子どもの家庭福祉とは何か | | | | 【予習】第1章を読む 【復習】①の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ②子ども家庭の定義と権利 | | | | 【予習】第1章を読む 【復習】②の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ③子ども家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境 | | | | 【予習】第2章を読む 【復習】③の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ④子ども家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境(いじめ、虐待、、DV、社会的養護等) | | | | 【予習】第2章を読む 【復習】④の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑤子ども家庭福祉の歴史(理念、児童理念の変遷、制度の発展過程等) | | | | 【予習】第3章を読む 【復習】⑤の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑥子ども家庭に対する法制度(児童相談所、児童福祉施設の種類、里親制度等) | | | | 【予習】第3章を読む 【復習】⑥の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑦子ども家庭に対する法制度(障害児支援、児童福祉制度に係る財源、最近の動向等) | | | | 【予習】第4章を読む 【復習】⑦の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑧子ども家庭に対する法制度(事例検討、児童虐待の防止等に関する法律) | | | | 【予習】第4章を読む 【復習】⑧の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑨子ども家庭に対する法制度(事例検討、DVの防止及び被害者の保護に関する法律) | | | | 【予習】第4章を読む 【復習】⑨の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑩子ども家庭に対する法制度(母子及び父子並びに寡婦福祉法) | | | | 【予習】第5章を読む 【復習】⑩の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑪子ども家庭に対する法制度(母子保健法、児童手当各法) | | | | 【予習】第5章を読む 【復習】⑪の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑫子ども家庭に対する法制度(売春防止法、子育て支援法、貧困対策の法律等) | | | | 【予習】第5章を読む 【復習】⑫の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑬子ども家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割(自治体、各種センター等) | | | | 【予習】第6章を読む 【復習】⑬の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑭子ども家庭に対する支援の実際(事例検討) | | | | 【予習】第6章を読む 【復習】⑭の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| ⑮まとめ | | | | 【予習】第6章を読む 【復習】⑮の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 | |
| 使用テキスト: 最新 社会福祉士養成講座3 児童・家庭福祉 中央法規 978-4-8058-8246-7 | | | | その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 | | |
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各テーマは重複する点があるので、配布した資料は毎回持参してください。 | | | | | | |